

第4回 日田もりビジョン推進検討委員会

日 時 令和6年2月29日(木) 午後2時

場 所 日田市役所 7階大会議室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 報 告

(1) パブリックコメントについて(1/17~2/15実施)

資料1

(2) 日田もりビジョン改訂(案)の修正について

資料2

・ビジョン改訂(案)の主な修正箇所一覧

参考資料

(資料1~2、参考資料、説明略)

4. 意見交換

大呂委員長

説明について、何か意見があればお願いします。

委員

よくまとめてもらっている。詳細は時代によって変わっていく。現段階では、この内容で十分と感じた。

委員

参考資料のNo.11で、架線集材の人材育成のことが書かれている箇所の訂正後、架線技術の向上から技術の継承に向けた取組となっているが、現状の架線集材は昔ながらの集材機を使った技術である。これが今後もこの技術を継承するという意味合いなのか。今後は、タワーヤーダ一等の高性能機械の活用になっていかざるを得ないと思っている。その部分は、架線技術の向上に入っているのか。「向上」の中に、技術開発して変わっていく技術も入っているのか。昔ながらの架線集材は増えることはない。含んでいるのかどうか、わからなかったので質問をした。

事務局

入っていると認識している。昔ながらのやり方は難しいと思っている。県や市の補助金を使って事業量を確保する中で、タワーヤーダーを使った技術の伝承なども入っている。もう少し書き方を検討したい。タワーヤーダーを入れるまでの道の接続などの課題もある。先日、森林組合さんの現場も見学させてもらった。少しずつ進めていきたい。

委員

日田市の総合計画の策定にも参加しているが、林業部門でも「ひた森の担い手協議会」のことがうたわれている。造林作業者の後継者づくりに努め、独り立ちを後押ししていくことを日田市と連携して進めていきたい。(資料2P18の新日田林業構想で挙げられた本市の課題で)森林組合の合併についても書かれていたが、両組合が一つになり、森づくり、森林環境に努めていくことが重要だと個人的に思っている。

委員

文言の変更部分で、現状、タワーヤーダー、スイングヤーダーなどの最新機械を使っているので、従来の索道技術はなくなっていく、教える人もいなくなっている。林業機械は開発が進んでいるので、新しい機械の名称を書かれても分からないので、用語集に追加すると良いと思う。

事務局

高性能林業機械には、タワーヤーダーなども含まれている。

委員

パブリックコメントで、歴史で良い意見をいただいた。資料、ビジョンの35ページのクラスターのイメージを大きくしていく必要があると感じた。

事務局

今回はビジョンの第2回の見直しなので、計画期間満了に伴う新規ビジョンの中で検討したい。

委員

ビジョンは良く書かれている。ビジョンとは離れるが、エリートツリーや早生樹について、質問がある。再造林を実施する立場で、花粉症の対策について、9ページに、去年の5月に花粉症に関するという箇所がある。エリートツリーや早生樹は、大分県の林業試験場で研究がされている。成長が早いエリートツリーや花粉が少ない品種について、どのようなものがあり、普及がどれだけ進んでいるのか。もう1つは、コウヨウザンなどの早生樹の活用、ニーズに応じた活用とは、どのような活用方法なのか、家具、建築材などとしての利用であれば、品質や強度など、スギ・ヒノキと比較してどうなのか、具体的にわかれば教えてもらいたい。

事務局

詳細については県の田口氏より伺いたい。花粉症対策については、県が県庁所在地より 50 km 圏内に伐採重点区域を指定した。日田市は、県庁所在地より 50 km 以上なので伐採重点区域に入っていない。花粉が少ない樹種については、指定があるので、今後の植え替えは、その樹種を使っていくことになる。エリートツリーについては、日田市の市有林で植栽実績がある。

委員

早生樹など色々樹種がある。県では 5～6 年前から、1 本 600 円超と高いが特定母樹の母樹を購入してもらい、苗木の生産者に母樹林を作ってもらう取組を始めている。県では、地域によって成長率の違いを把握するため、研究部と一緒に、どの特定母樹が育つのか試験を進めている。どの母樹を採用するか 9 品種まで絞り込みをしている。それを皆さんに作ってもらい、森林組合等を通して植えてもらう。大分県内に由来する特定母樹など色々ある。品種を特定し、今度の花粉対策に該当することになる。花粉対策の該当樹種には、シャカイン、タノアカも入っている。県下で 6～7 割となっており、将来的に 9 割くらいに拡大したい。コウヨウザンについては、利用方法を検討中で、合板、家具などの話もあった。林業研究部で平成 28 年から 3 年かけて研究している。使い道は色々ある。材質は、スギとヒノキの間。量に応じてどう利用するかということになる。ヒノキの代わりに合板の材料にするなどが考えられる。量的にどうなるかわからないので、まずはバイオマス発電などに利用してもらおう。成長量が大きいので、最終的にはバイオマスで使っていける仕組みを確保しながら、利用率を上げるように考えている。森林所有者にもコウヨウザンなどの植栽も進めてもらいたいと思っている。

委員

ビジョンについては特に意見はない。巻末のアンケートは、見直しに応じて取られている。私たちの顧客であるエンドユーザーに近い方々の状況を把握でき、参考になるので今後も続けていただきたい。

委員

内容については特にない。家具の現状について、家具は一般向け販売が落ち込んでいる。販路開拓で、BtoB の企業間取引の注文家具に軸足をシフトする必要がある。具体例をあげると、去年、東京のブルガリホテルに内装家具として日田家具が入っている。麻布台ヒルズ 60 階マンションの家具に入っている。JR 九州の豪華列車（かんぱち・いちろく）に採用されている。ななつぼしは大川の家具だが、今回は座席などに日田家具が入っている。地域材の需要開拓に積極的に取り組んでいきたい。

今年度より、学童机、いす、市内小学校の 1、2 年生。1070 セット来月 3 月までに納入予定。来年度以降も順次、小中学校に入れていく。

委員

日田市の特徴は、市役所、別館給食センター、運動公園、AOSE(アオーゼ)、小中学校など、地元の林業で、地元のバイオマス発電による電気を使っているところで、良い特色である。アピールの武器として使えるのではないか。地域の資源、地産地消、環境教育についても他の地域との差別化に使えるのではないか。質問は、参考資料 No. 10 で早生樹の話があったが、「早生樹である杉のエリートツリー」という表現はあっているのか。早生樹と特定母樹であるエリートツリーは別ものと思っていたが、コウヨウザン、チャンチイモドキ、センダンなどは早生樹、エリートツリーは特定母樹だという解釈だったが、詳しく教えてほしい。

67 ページの中に HP やフェイスブックと書いている。フェイスブックは少なくなっているの、SNS 等と書いた方が、裾野が広いのではないか。

事務局

フェイスブックの箇所は修正します。エリートツリーと早生樹の関係については、田口氏で何かわかることがあればお願いしたい。

委員

スギのエリートツリーは、材質が良い、成長が早いなど特徴が高いものを言っている。花粉が少ないなども入るかもしれない。それが全て良いのが特定母樹となる。エリートツリーは、そのうちどれかが含まれる。早生樹は、ある成長量を一定以上超えるものを呼ぶ。スギも含まれる。クヌギ、センダンも含まれる。それをどう表現するかという問題かと思う。

委員

地域産業の担い手育成に関することだが、他の専門高校が定員減になっている中、日田林工は定員減になっていない。定員は 40 名だが、推薦入学は 4 名定員があり、その後 36 名募集に対して、22 名の応募があった。これを何とかしようと、地元企業などにお手伝いをしてもらいながら、学校でも色々やってもらっている。全国募集の提案もあった。アピールをしようとやっているが、西部振興局と、高性能林業機械の講習会、新しい機械を入れる、スマート林業の導入など、きつだけの林業でないところも見せた。県の森林環境譲与税の利用と思うが、県の教育委員会の予算がつき、岡山や宮崎など研修にも行っている。行った生徒は内容にビックリしている。今年の卒業生も、県や地元の企業に就職、大学進学後教員を目指す生徒もいる。そういった生徒を育てるのにもアピールが重要かと思っている。予算がなくなかなかできないが、地元の企業からの金銭的な支援の話も出ている。ありがたい。定員を満たして、地域の担い手を育成する。

市役所へのお願いだが、演習林へ行く林道が大雨の被害で壊れている。過去最大の被害になっている。財政課の人は、お金がかかるなら演習林はいらないという意見になりがちなので、早急に支援をいただき復旧してほしい。

事務局

林工高校の全国募集については、ひた森の担い手づくり協議会、産業界と一緒に県に要望してきた。市全体で全国募集とともに、魅力化を進めている。もう1点、これまでは一家転住でないと入れなかったが、身元引受人がいれば入りやすくなるということで、うきは市なども入れるようになった。演習林は、国の査定が終わったので、予算化して復旧に向けて取り組んでいる。

委員

全体的にはまとまっており、林政の課題や地域の課題、特徴を含めた独自のビジョンができあがっている。86ページのアンケートは、令和5年の調査だが、参考に26年の票数が入っている。回答の総数が同じであれば、10年間の増減の変化がみられるのではないか。アンケート結果だけの答えを文面にしているが、10年経っての変化があれば、参考になるのではないか。89ページで皆伐が増えているだろうと意識は持っているが、実際に植林は現在24%、10年前は13%と伸びている。収入があったのは38%、前回は29%と、状況が変わってきている。92ページの山林の譲渡については、無料でも構わないが3%いるなど。特徴的なことをわかるように書いてもらえればと思う。

用語集については、早生樹については説明があるがコウヨウザンはわかるのか、森林クラウドシステムも、三角形の絵での説明はあるが、クラウドシステムを知っている人がいるのか。Jクレジット制度も説明しにくい。スマート林業なども。新しい用語について、誰もが同じ目線でみられるのか、追加しても良いのではないか。

事務局

アンケート調査については、9年ぶりに実施した。総合計画に合わせて4年毎に見直しをしている。4年毎にアンケートは難しい。今回ページも増えているので、アンケートの追加については検討したい。用語については、足りない点があると認識した。県も参考に見直しをしたい。

委員

次期の見直しがあるのか。

事務局

総合計画は4年後の策定となるのでそれに併せて行う。来年度以降、進捗管理は現委員会を縮小した形で実施予定である。

委員

次回見直しの際、森林組合の合併の話も検討いただきたい。7市場が良いのかを考える時期にも来ているのではないか。行政的な指導もお願いしたい。

事務局

全国の動向もみながら慎重に検討させてもらいたい。

委員

ビジョンの策定に向け、忙しい中ご出席いただき感謝している。皆さんの承認を得られたのは協力の賜物である。施策に反映できたものとしては、早生樹を含めた再造林の推進、花粉症対策の取組、Jクレジット二酸化炭素吸収量見える化の推進、個人住宅のみではなく中大規模の建築物の木造化、木質化。造林育林の担い手育成の取組、架線集材、高性能林業機械を用いた技術の継承など、いずれも市の大きな課題ととらえている。ビジョンの実現に向けて森林・林業・木材産業関係者、市、県、国が一体となって取り組みたい。毎年進捗管理を行いながら進めていく。委員各位においては、引き続きご指導いただきたい。

大呂委員長

この後の修正は事務局に一任いただきたい。

全体的な印象としては、川上から川下まで層が厚く、率直に意見交換できるのが、日田の林業、林産業の強みである。付加価値をいかにつけるかが重要となる中、川下まで地域にいることは、日田の優位性である。優位性を活かし、密に情報共有しながら進めていく、お互いの立場で何が出来るかを検討していく積み重ねが大事。色々な立場から色々な意見を言う場があること自体が、産業にとっても重要。このビジョンからスタートし、フィードバックして次につなげることが重要。これが良い機会になったと思うし、私も少しでも力になれたとしたら嬉しいこと。皆さまから暖かく建設的な意見を出していただきことに感謝している。

日田林業に関わられたのは良い機会で、今後も関わっていききたい。今後ともよろしく願います。

事務局

事務局側からとして、皆様に貴重なご意見を頂き、ようやくビジョンのとりまとめに目処がたった。お礼申し上げます。

このビジョンができ目指すべきところは、林業、木材産業の活性化、日田市全体の活性化だと思う。ビジョンに書かれていることをいかに実現していくかが、一番重要なことになる。それは、行政だけではなく、市民の皆さん、事業に取り組まれている皆さんと一緒に初めて解決できる問題も多々あると思う。このビジョンでは、1年1年進捗を振り返るという作業をしていく。引き続き、皆さんには現場での率直な意見を頂きたい。

1年間議論に参加頂きありがとうございました。

5. その他

6. 閉会